報道各位

2018 年 3 月 30 日
株式会社インプレスR&D
https://nextpublishing.jp/

テーマの立て方から校正まで

「はじめての技術書ライティング—IT 系技術書を書く前に読む本」発行

分かりやすい本を書くためのコツを解説！

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、『はじめての技術書ライティング—IT 系技術書を書く前に読む本』(著者:向井 領治)を発行いたしました。

『はじめての技術書ライティング—IT系技術書を書く前に読む本』
https://nextpublishing.jp/isbn/9784844397977

著者:向井 領治
小売希望価格:電子書籍版 1600 円(税別)／印刷書籍版 2200 円(税別)
電子書籍版フォーマット:EPUB3／Kindle Format8
印刷書籍版仕様:A5 判／モノクロ／本文 214 ページ
ISBN:978-4-8443-9797-7
発行:インプレス R&D

＜＜発行主旨・内容紹介＞＞

本書では、筆者自身の職業ライターおよび編集の経験を踏まえたうえで、IT 系の技術書や読み物の原稿を書くための基礎知識を、やさしく解説することを心がけました。執筆にあたっては、初めて商業出版物の原稿を書く方を念頭に置きつつ、同人誌やセルフパブリッシング本などでも活用できるように配慮しました。

本書がカバーするのは、出版物の制作のなかでも、著者が 1 人で行う工程である原稿執筆が中心ですが、その前後の工程である企画および校正にも、著者が関わる部分に限って解説しています。

(本書は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

1.3 出版物として完成するまでの流れ

企画立案から始まり、出版物として完成するまでの流れを、著者の立場から見ると、おおよそ次のようになります。

●企画立案から完成までの流れ

① 企画を立てる
② 構成を考える
③ 原稿を執筆する
④ 必要に応じて、原稿を補助する要素を手配する（→下書きの完成）
⑤ 原稿を自分でチェックし、修正する（「推敲」（すいこう）と呼びます）
⑥ ⑤を繰り返し、原稿として完成する（「脱稿」（だっこう）と呼びます）
⑦ 発表メディアに応じてレイアウトする（商業出版の場合は編集者の仕事ですので、著者は待つばかりです）
⑧ 出版物としての体裁をチェックする（「校正」（こうせい）と呼びます）
⑨ 完成！

この一覧には記入していませんが、①〜⑥のすべての段階で、調査や検証の作業が必要になります。とくに技術書では最も重要な作業ですので、随時行ってください。

⑦レイアウトの作業には、表紙デザインの制作や本文の割付など、出版物にとって重要なものが含まれますが、発表メディアによって仕様や作業内容がまったく異なります。また、誰が行うにしても、著者として担当する作業ではありません。よって、本書では扱いません。

⑧校正の作業は、自主出版のように著者が自分で行う場合と、商業出版のように編集者と協力して行う場合があります。本書では後者を中心に紹介しますが、著者自身が行うときにも役割や工程がわかりやすくなるので参考にしてください。

なお、実際にはこの後も発売まではさまざまな作業がありますが、著者として直接関わる作業ではないため、本書では詳しくは触れません。

1.3.1 原則として逆流はしない

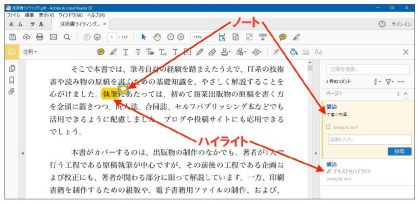
出版物の制作工程は、原則として逆流することを想定していません。そのため、逆流が必要な作業が発生するとそのたびに多くの作業がやり直しになり、制作現場の混乱を引き起こしたり、制作期間の長期化を招きます。著者としてもこのことをよく心得てください。

出版物制作の現場はコンピュータの導入や自動化が進んでいますが、いまでもほとんどの作業は、人間が目で読み、手を動かして行っています。誤字脱字のチェックさえ、コンピュータ任せにはできません。さまざまな試みはありますが、工程を逆流しても許容できるほどではありません。

順調に制作を進めるには、前に示した制作工程を、できるだけ確実に1段階ずつ積み上げることが必要です。たとえば、⑤推敲が不十分であると、原稿に誤字脱字が多く残ったままになるおそれがあります。そのまま後の工程へ進んでしまい、もしも⑧校正の段階で大量の誤字脱字が発覚すると、⑦レイアウトへ戻って大量のやり直し作業が発生します。

制作を効率的に進めるには、それぞれの段階でできるだけ完璧に仕上げることが必要です。現実には、本当に完璧にすることはできませんし、どれだけ念入りに作業したつもりでも必ず何らかの問題は残ります。しかし、逆流することを前提にはできません。このことは、多くのスタッ

●1 箇所にノートとハイライトの両方がある例（悪い例）

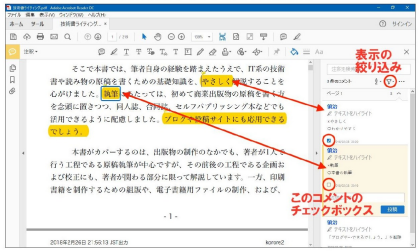


この図では、本文に対してハイライトがあり、ほぼ同じ箇所にさらにノートが付けられています。意地の悪い言い方をすると、ノートにはコメントがありますが修正する箇所がわかりませんし、ハイライトにはコメントがないので修正内容がわかりません。

前の図のように注釈を書き込んでも、1ページの修正箇所が少ない場合は、2つの注釈は同じ箇所のことだと判別できます。しかし、狭い範囲に多くの修正がある場合は、どの箇所に対してどのように修正したいのか区別できなくなってしまいます。

Acrobatのコメント一覧表示には、コメント1つずつにチェックボックスがあるので、修正を済ませた箇所をチェックしていくことで、未修正の項目がわかります。また、コメントを絞り込むメニューを使うと、チェック済み（修正済み）のコメントを非表示にして、未修正の箇所をリアルタイムで調べられます。すべての編集者がこの機能を使っているとはかぎりませんが、少なくはないでしょう。

●Acrobat ではチェックボックスを使ってコメントを 1 つずつ管理できる



なお、修正箇所によっては画面上で見えづらくなることがありますが、これを気にして別の注釈を追加して目立たせる必要はありません。編集者が前記の機能を使っていれば、たとえドキュメント上で重なっていても見落とすおそれはないはずです。

＜＜目次＞＞

第1章　準備
第2章　企画と構成
第3章　本文の執筆
第4章　本文の補助要素
第5章　推敲と校正

＜＜著者紹介＞＞

向井 領治

実用書ライター、エディター。1969 年、神奈川県生まれ。信州大学人文学部卒。パソコンショップや出版社の勤務などを経て、96 年よりフリー。単著共著あわせて 50 点以上を執筆する一方、Web や印刷物の制作などの実務も手がける。著書に『考えながら書く人のための Scrivener 入門――小説・論文・レポート、長文を書きたい人へ』『いつでもどこでも書きたい人のための Scrivener for iPad & iPhone 入門――記事・小説・レポート、文章を外出先で書く人へ』(以上、ビー・エヌ・エヌ新社)、『Mac、iPhone、iPad ユーザーのための これだけでかなり Evernote が使える本』『あなたの Web を WordPress で再起動する本』(以上、ラトルズ)など。

＜＜販売ストア＞＞

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、Apple iBookstore、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※　各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※　全国の一般書店からもご注文いただけます。

【株式会社インプレス R&D】 https://nextpublishing.jp/

株式会社インプレス R&D（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信）は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム（またはメソッド）の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド（POD）による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 https://www.impressholdings.com/

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:唐島夏生、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ＋サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017 年 4 月 1 日に創設 25 周年を迎えました。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 1-105

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp